

様式 1

中間報告書 (平成 23 年度)

提出者 今田絵里香

提出年月日 2012 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文

「戦後日本におけるセクシュアリティと親密性の再編」

英文

Sexuality and Reconstruction of Intimacy in Postwar Japan

【メンバー構成】

研究代表者 小山静子 (京都大学人間・環境学研究科教授)

幹事 赤枝香奈子 (京都大学文学研究科特定助教)、今田絵里香 (同)

メンバー 斎藤光 (京都精華大学)、一宮真佐子 (京都大学文学研究科研究員)、菅野優香 (京都大学人文科学研究所研究員)、前川直哉 (京都大学人間・環境学研究科博士後期課程)、田中亜以子 (同)、日高利泰 (京都大学人間・環境学研究科前期課程)、朴珍姫 (京都大学文学研究科博士後期課程)、トジラカーン・マシマ (同)、桑原桃音 (龍谷大学非常勤講師)、中山良子 (大阪大学文学研究科博士後期課程)、リ・ユンヒ (総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程)

【ねらいと目的】 (600 字程度)

本研究は、戦後日本社会においていかなるセクシュアリティ規範が形成されたのか、それは親密圏の形成にどのような影響を及ぼしたか、その解明を目指すものである。とくに、これまであまり研究されてこなかった若者のセクシュアリティについて、戦前と比較しどのような変化が見られるかを検討し、さらに他のアジア諸国との比較も行いながら、国家横断的に形成されつつある新たなセクシュアリティ文化についても考察する。

戦後日本のジェンダー秩序にかんしては、すでに社会学、女性学等において豊富な研究の蓄積がある。その結果、日本においては戦後、男女の性別役割分業に基づく女性の専業主婦化が広まったことが明らかとなった。そして、サラリーマン男性と専業主婦、その実子からなる「近代家族」が規範としても実態としても浸透し、この家族形態を前提とする社会体制が作られたことが論じられてきた。

セクシュアリティにかんしても、夫婦間の性関係の変容 (避妊の知識やその実践、楽しみとしての性の広まり等) については、政策面とのかかわりまで視野に入れた研究がなされている。ただそれは、戦後日本のセクシュアリティのごく限られた一面にすぎない。メディア上では、戦後まもない頃から性にかかわる話題が一般誌等でも公に語られるようになったが、その一方で若者に対しては純潔教育が説かれるなど、単純に「性の解放」とは

括ることのできない、ジェンダーや年齢によって異なる重層的なセクシュアリティ規範が見られる。また「明るい」男女交際や「明るい」夫婦生活が語られるようになる一方で、同性愛は戦前に比べ、よりスティグマ化され厳しく批判されるようになった。

これらセクシュアリティをめぐる規範は、日本固有のものというよりも、海外の思想的影響を取捨選択しつつ形成されたものであり、また、戦後突如として始まったものではなく戦前から時間をかけて醸成され浸透してきたものである。さらに近年では、漫画やインターネット等のメディアを介して、日本で形成されたセクシュアリティ文化（「やおい」「百合」等）がグローバルな人気を見せていることにも表れているように、セクシュアリティをめぐる規範や文化は一国のみで形成されるものでもない。

このように、戦前日本、さらには海外とも連続性を持ちつつ、重層的に構築された戦後のセクシュアリティ規範について、結婚や家族の形成には至らないセクシュアリティをも視野に入れながら総体的に明らかにする。そして戦後日本の親密圏がセクシュアリティや親密性とどのような関係にあったのかを解明したい。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等
調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等
その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

(1) 研究会及び特別セミナーの開催

種別	月日	報告者	報告タイトル
研究会 (8)	2011年4月29日	中山良子	「雑誌『平凡』に展開した純潔とはなんであったのか——純潔教育と農村に着目して」
研究会 (9)	2011年6月10日	菅野優香	「赤線「以後」と女の共同体——映画『女ばかりの夜』(1961)にみる女性同性愛表象」
研究会 (10)	2011年7月15日	小山静子	「男女共学と純潔教育の登場」
研究会 (11)	2011年10月7日	桑原桃音	「ティーン誌における女子高生の性——1988年から1997年の『SEVENTEEN』読者調査記事にみる異性愛物語の表象」
研究会 (12)	2011年11月18日	日高利泰	「少女マンガにおける恋愛表現の登場」
研究会 (13)	2012年1月29日	中山良子	「1959年、『純潔のために』が『平凡』の付録について理由——メディアと高校生のセクシュアリティ」
		トジラカーン・マシマ	「すぎ恵美子と80-90年代の『少女コミック』における性描写」
特別セミナー (3)	2012年2月24日	三橋順子	「東京の「赤線」——戦後日本の黙認買売春地区」
		加藤政洋	「赤線時代における京都の〈雇仲居〉文化」
研究会 (14)	2012年3月5日	田中亜以子	「感じる女」と「感じさせる男」の成立——戦後はいかなる意味で転換点となったのか？」
		一宮真佐子	「田園のファンタズム——マンガの中の農村の性」
		朴珍姫	「韓国テレビドラマに表れる'恋愛'と韓国女性」
研究会 (15)	2012年3月15日	石田仁	「凝集／拡散する男性同性愛者——1970-80年代の一般雑誌記事を通して」
		斎藤光	「純潔教育委員会について」

(2) 調査の実施

種別	年月日	調査地	調査者／参加者	目的
調査	2011年8月17～ 31日	タイ・バンコ ク	赤枝香奈子、菅野 優香	タイのセクシュアル・マイノリティ 文化について明らかにするため、 @tom actなどで、聞き取り調査を実 施する
調査	2011年9月4～14 日	韓国・ソウル	今田絵里香、一宮 真佐子、朴珍姫	韓国の少年少女文化を明らかにする ため、韓国雑誌情報館などで、資料 調査を実施する
調査	2011年10月29～ 31日	日本	トジラカーン・マ シマ、日高利泰	戦後日本の少女マンガ文化を明らか にするため、昭和漫画館青虫で貸本 漫画に関する資料調査を実施する
調査	2012年1月7～9 日	日本	前川直哉	戦後日本のセクシュアル・マイノリ ティ文化を明らかにするため、東京 大学総合図書館で資料調査を実施す る
調査	2012年1月18～ 27日	日本	田中亜以子	戦後日本の夫婦間セクシュアリティ について明らかにするため、大宅壮 一文庫などで資料調査を実施する
調査	2012年1月21～ 24日	日本	菅野優香	戦後日本の赤線・パンパン映画に関 して明らかにするため、早稲田大学 演劇博物館などで資料調査を実施す る
調査	2012年1月22～ 24日	日本	小山静子	純潔教育について明らかにするた め、国立国会図書館で資料調査を実 施する
調査	2012年1月22～ 25日	日本	今田絵里香	戦後日本の少年少女文化における異 性愛表象について明らかにするた め、東京都立多摩図書館で資料調査 を実施する
調査	2012年2月2～5 日	韓国・ソウル	一宮真佐子	韓国の農村におけるセクシュアリテ ィ文化を明らかにするため、農業博 物館などで資料調査を実施する

調査	2012年2月10～ 13日	日本	石田仁	戦後日本のセクシュアル・マイノリティ文化を明らかにするため、大分大学で行われる研究会に参加し、聞き取り調査を実施する
調査	2012年2月16～ 18日	日本	桑原桃音	戦後日本の少女雑誌におけるセクシュアリティ表現を明らかにするため、大宅壮一文庫などで資料調査を実施する

【成果の概要】（800字程度）

2011年度は、ポピュラー・カルチャーの輸入という点で関係の深い韓国について、タイの場合と同様に、現在、どのようなセクシュアリティ規範が若者の間に見られるか、それは日本から漫画等を通して輸入されるセクシュアリティ文化・表象とどのような関係にあるか現地調査を行った。そして二年間の成果をもとに、日本、タイ、韓国のセクシュアリティ規範について、それを構成する諸要素——近代的性科学、前近代的性規範、ジェンダー、宗教等——について考察し欧米のセクシュアリティ規範との類似性や差異を考察した。さらに、セクシュアリティ規範や文化がそれぞれの国の親密圏の形成に及ぼした影響について、家族研究やジェンダー研究の知見と照らし合わせながら明らかにした。

（1）タイにおけるフィールド調査においては、タイのセクシュアル・マイノリティの表象やネットワーク形成が急速に変化しつつあることが明らかになった。タイのセクシュアル・マイノリティ文化の担い手が若者に変化し、日本の若者向けファッション雑誌を経由して取り入れられた文化とともに、韓国の若者向けドラマを経由して取り入れられた文化が混在していることがわかった。

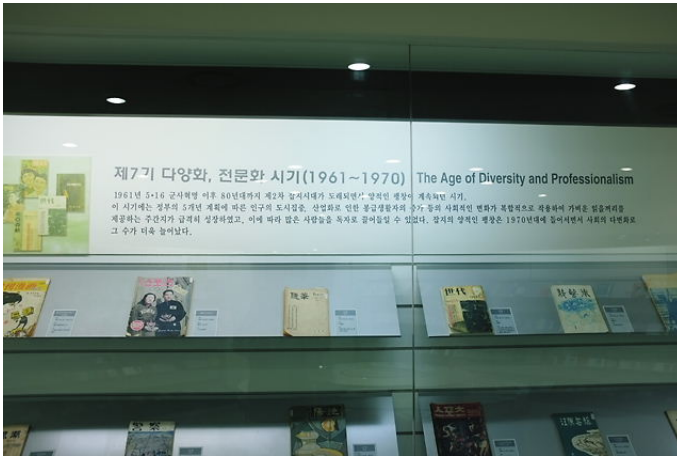
（2）韓国におけるフィールド調査においては、日本の1990年代のトレンドドラマの影響を受けつつ、それを韓国の異性愛規範に合致させる形で、純愛・純潔志向の「メロドラマ」が韓国において生み出されたことが確認された。

（3）個人研究の成果、及び、特別セミナーの報告とディスカッションから明らかになったことは、「赤線」の内と外においては、セクシュアリティの規範がまったく異なっていたことということであった。「赤線」の内においては近代の遊廓を引き継ぎつつ、戦中・戦後に新たな施設が作られ、その規模を拡大させていったことがわかった。一方、「赤線」の外においては、社会教育及び学校教育において純潔教育が実施され、少年少女雑誌においては「明るい男女交際」が宣伝され、女性雑誌においてはセクシュアリティを夫婦間でのみ限定しようとする試みが行われたことが明らかになった。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代 <input type="checkbox"/> 次世代ユニット <input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額 (千円) 実績額



2011年9月4～14日、韓国の少年少女文化を明らかにするため、韓国雑誌情報館などで、資料調査を実施した。写真は、韓国雑誌情報館内に展示されていた1961～1970年の韓国の雑誌である。



2012年2月24日、特別セミナー(3)「『赤線』再考」を開催した。京都大学内外から大きな反響があった。セミナーには多くの人が集まり、開始時には30部の配布資料がすべてなくなり、新たに増刷しなければならないほどであった。